

公園・庭園

ディアヌの庭園

最も小さな庭園で、その名前の由来となった彫像『ディアヌと雌鹿』が、泉水に飾られています。かつては君主たちの私有庭園でした。17世紀には、ツゲの花壇が構成し、彫像が裝飾されていましたが、帝政時代にイギリス式庭園に改築され、今日でもそれらの特徴を留めています。

イギリス式庭園

フランソワ1世治世下では『マツの庭』と呼ばれ、複数の小庭園で構成されていました。ルイ14世によって再設計された後に、ナポレオン1世下でユルトーによって再整備されます。川や曲がりくねった小道、人工岩、エキゾチックな樹木の数々が、風情あふれる景観を形づくっています。

大花壇

このヨーロッパ最大の花壇は、ツゲ裝飾は失われたものの、現在もルイ14世の造園家であったル・ノートルの設計のままに保たれています。花の季節には、4万5千種の花々が咲き誇ります。

公園

『大花壇』の向こうには、公園と運河が広がり、眺望が楽しめます。1200mの運河は、アンリ4世下に建設されました。

- A. ディアヌの泉水
- B. ベル・オーの泉水
- C. 鯉の池
- D. カスカードの池
- E. 王妃の泉水
- F. 運河
- G. 水路
- H. ナポレオンの泉水



ユースフルインフォメーション

宮殿

毎火曜日、1月1日、5月1日、12月25日を除き、毎日入場できます。

- 10月から3月:
午前9時30分から午後5時まで
- 4月から9月:
午前9時30分から午後6時まで
- 最終入場は、閉館の45分前となっています(ライブラリー・ショップは除く)。

庭園・中庭

開園は下記の通りです。

- 11月から2月:
午前9時から午後5時まで
- 3月、4月、10月:
午前9時から午後6時まで
- 5月から9月:
午前9時から午後7時まで

注意:『ディアヌの庭園』は上記時間の30分前、イギリス式庭園は1時間前に閉園します。

特別閉館日についてはサイトでご確認ください:
www.chateaufontainebleau.fr

公園

一年中、常時入園できます。

アクセス

グラン・アバルトマンはバリアフリーです。『マチュランの中庭』(公立劇場向かい)から、車によるアクセスが便利です。グラン・アバルトマン内では、ベビーカーが使用できません。混雑時を除き、ベイスリング、軽量ベビーカーを貸し出しています。

展示室内での飲食は禁止されています。また、喫煙、フラッシュを用いた写真撮影、展示物へ触れることは、いずれも禁止されています。



入場チケットは終日有効です。

お問い合わせ
電話: 01 60 71 50 70
www.chateaufontainebleau.fr

ユネスコの世界遺産リストに登録されています。ユネスコ世界遺産への登録は、普遍的価値を持つ文化または自然の貴重な遺産を、人類のために保護することを担っています。



Château de Fontainebleau

宮殿と公園・庭園の見学

フォンテーヌブロー宮殿



宮殿の歴史

中世の城

1137年には建てられていたと認められる初期の城のうちで現存するものは、ドンジョン（主塔）(1)のみです。

ルネサンス期の城

1528年より、フランソワ1世が城の再建を始めます。イタリア建築から着想した『黄金の門』(2)は、王室が使っていたアバルトマンおよびアンリ2世が完成させた『舞踏会の間』(3)が囲む『楕円の中庭』の入り口です。この中庭は、『フランソワ1世の回廊』(4)を介して、第二の中庭（現在『正面中庭』）へとつながっています。プリマティッチョが設計した『美しい暖炉 - ベル・シュミネの翼館』(5)には、フランス風にアレンジされた典型的なイタリア・ルネサンス様式の二重螺旋階段が見られます。

17世紀

アンリ4世も、大々的な城の建築を行いました。『楕円の中庭』を開いて拡大し、後のルイ13世の洗礼式を記念して命名された『洗礼室の門』(6)を造りました。門は新しい付属棟『クール・デ・ソフィス』(7)に面しています。アンリ4世の意図で、二重回廊（『ディアヌの回廊』と『雄鹿の回廊』）(8)を擁した建物や『鳥小屋』(9)、『ジュー・ド・ポーム遊戯場』(10)も建てられました。

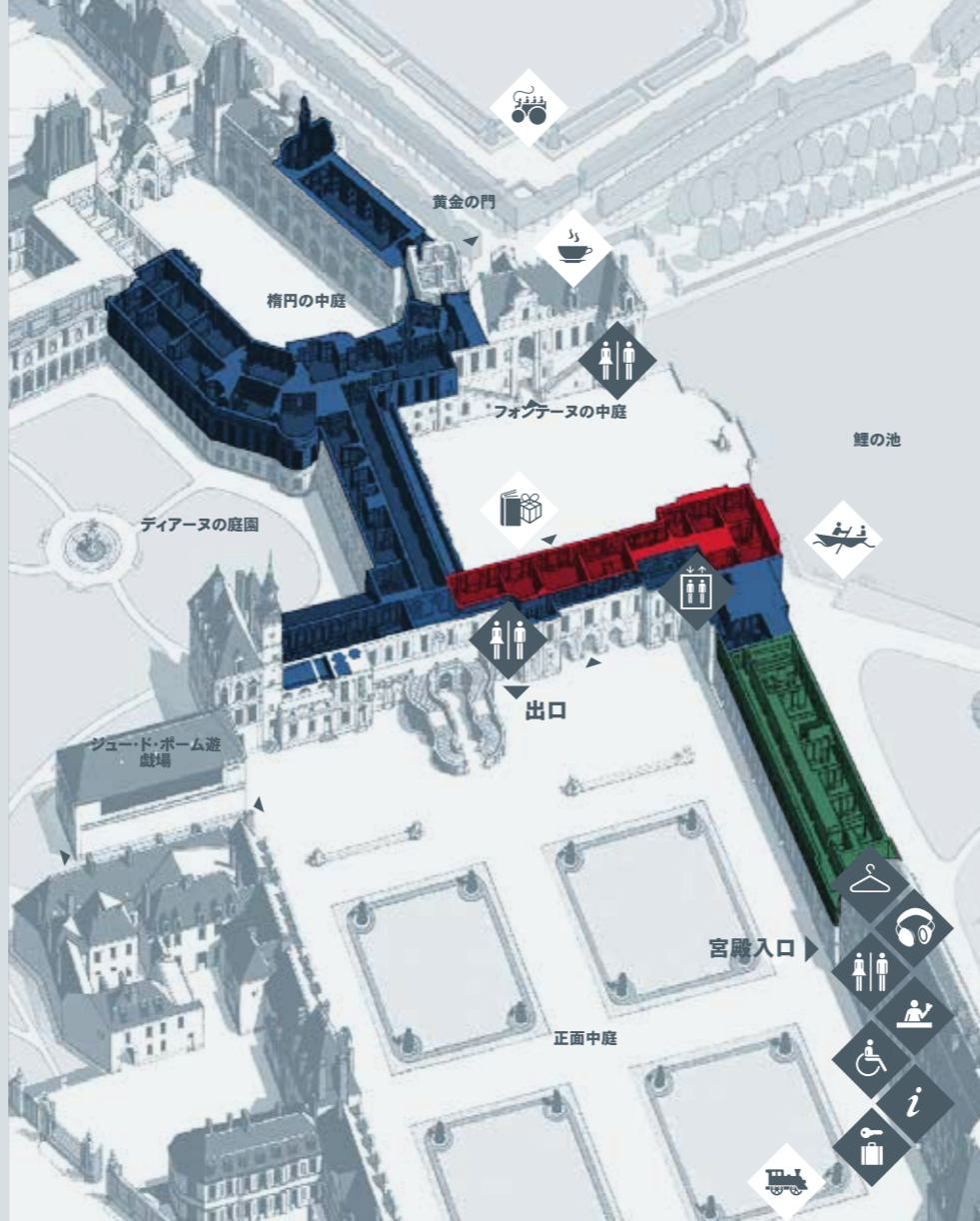
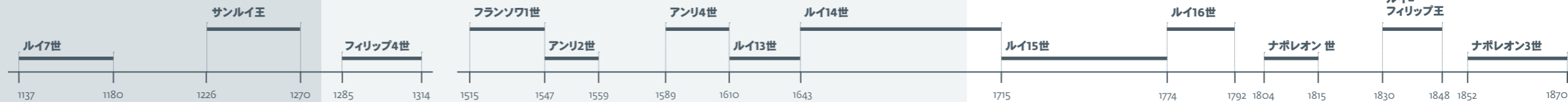
18世紀

ルイ15世の命により、旧『ユリシーズの回廊』(11)がより大きな空間に置き換えられ、1750年にガブリエルが構想した『グロ・パビヨン』(12)が建てられました。

19世紀

フランス革命期には、城の調度類が持ち出されたものの、建物自体は破壊を免れました。ナポレオン1世が皇帝の居城とし、家具調度品を新調しました。『フェアラレ棟』が解体され、現在の格子門(13)が設置されます。ルイ=フィリップ王治世下で、『鳥小屋』が取り壊されました。ナポレオン3世治世下の工事は、主に内装に費やされました。

■ 中世
■ ルネサンス期
■ アンリ4世、ルイ13世
■ ルイ14世、ルイ15世、ルイ16世
■ 19世紀に喪失



宮殿の自由見学

ご自由に見学をお楽しみください。11か国語のタッチパッド案内画面をご利用いただけます。

ナポレオン1世博物館

皇帝ナポレオン1世とその一族が所有していた素晴らしい家具調度品や美術品、肖像画などを紹介しています。

教皇のアバルトマン

賓客用のアバルトマン。その名は、1804年、1812年の2度に渡って滞在したローマ教皇ピウス7世に由来しています。シーズンにより、閉館することもあります。

グラン・アバルトマン

複数の展示室、回廊、アバルトマンを含む見学コースです。『暦の回廊』と『絵皿の回廊』では、フォンテーヌブローで起きた歴史的な事件をたどることができます。ルネサンス様式の間（『フランソワ1世の回廊』、『舞踏会の間』）は、フランスで唯一のもので、フランソワ1世、アンリ2世治世下に、イタリア人の芸術家ロッソ・フィオレンティーノとプリマティッチョが構想したすぐれたフレスコ装飾と漆喰装飾が残されています。当時のフォンテーヌブローは、ヨーロッパ芸術の中心地のひとつでした。『楕円の中庭』と『ディアヌの庭園』に面した『王のアバルトマン』は、数々の君主と宮廷を迎え入れてきました。ナポレオン1世のアバルトマンは、皇帝を迎えるために1804年より整備された一連の間で構成されています。このアバルトマンで、1814年4月6日にナポレオンが退位しました。フランソワ1世の所望で着工された『三位一体の礼拝堂』は、ルイ13世治世下で竣工しました。アーチ型天井の装飾は、マルタン・フレミネの作品です。

追加料金を伴うその他の見学コース

料金所にてお問い合わせください。

中国博物館

第二帝政の趣に整えられた中国博物館は、中国やシャムをはじめとする極東の見事な美術品を所蔵しています。タブレット端末「ヒストパッド」を使った見学で、コレクションのインタラクティブな検索が可能です。

ガイド付き一般見学コース

ガイド付き一般見学コースは、毎日行われます。宮殿の起源から第二帝政時代までの歴史を発見できます。

『プティ・アバルトマン』（小居住棟）のガイド付き見学

皇帝そして皇后ジョゼフィーヌ、マリー=ルイズのプライベートなアバルトマン。

『皇帝の劇場』のガイド付き見学

ナポレオン3世の命により建設された『皇帝の劇場』は、第二帝政下の宮廷の劇場を見事に物語っています。

『トルコ間房』のガイド付き見学

マリー=アントワネットの私室『トルコ間房』で、アンジャン・レジーム期の東洋趣味を垣間見ることができます。革命後、皇后ジョゼフィーヌのために家具調度品が新調され、専用の寝室となりました。

『ナポレオン3世の執務室』および『ウジェニー后の漆の間』のガイド付き見学（テーマ別見学コースに含まれます）

シーズンにより、テーマ別見学も設定されています。